

渡辺復興大臣

参議院会館 復興フェア訪問ぶら下がり会見録

(平成31年2月20日(水)12:09~12:15 於)参議院議員会館)

1. 発言要旨

参議院が主催する復興フェア、私と浜田副大臣が参加させていただきましたけれども、本当にありがとうございます。このような機会を提供していただいている皆さん方にも、心から感謝を申し上げます。

被災地の状況を少しでも皆さん方に分かってもらおうと、そしてまた何よりも食べていただくことによって、被災地の皆さん方に元気を与えていくのではないかなと思いますので、こういったフェアを通じて多くの方が被災地と結び付いていただければ大変有り難く思います。

そして、このような「ふくしまを食べよう」という高校生の漫画にもなっておりますけれども、若い人がこの農産品に対して生産者と、そして消費者を結び付けるような役割を担っているということは、大変すばらしいことだというふうに思います。このような活動に対しても、私どもはしっかりとバックアップをしていきたいと考えております。

このような形でフェアを実施しました。これを継続的に実施することによって、今年のラグビーのワールドカップを更に盛り上げ、そして来年の東京オリンピック・パラリンピックに更につなげていけるようにしていきたいというふうに思っております。

今後とも政府が一丸となってこの風評被害を払拭する、こういった大事な役割を担ってまいりたいというふうに思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いを申し上げます。

2. 質疑応答

(問) 先程、多くの人に被災地との結びつくきっかけにという話がありましたけれども、8年が経過する中で記憶の風化という話もあります。風評だけでなく、震災の記憶、風化という問題もあると思いますけれども、国会の隣、立法機関のど真ん中でこういう機会が設けられるということについての意義をどうお考えですか。

(答) この意義は、今お話ありましたけれども、風評払拭という狙い、それを目的として開催いただいているのですが、「福島や宮城や岩手、みんな頑張っているね」と、もう一度そういった被災地に目を向けていただけるきっかけをつくる、これが正に風評払拭と、そして風化を防ぐ大変重要な要素だというふうに思っておりますので、意義としては両方あるというふうに思っています。

(問) 被災地産品の魅力と、あと、もし大臣のお好きなメニューがありましたら、挙げていただければと思うのですけども。

(答) それぞれありますが、例えば沿岸部ということの魅力でいうならば、やっぱり魚類、水産品がおいしいですね。私の好きなのはサバですけど、サバ缶はアンテナショップに行くと毎回買っています。さらには、やっぱり農産品。「ふくしまを食べよう」の彼女たち、一生懸命こうやって福島の農産品をアピールしております。福島の農産品については、もっともっとアピールをしていく必要があって、これが正に風評払拭につながっていくというふうに思います。

(問) 復興は、どういう状況、どういった位置付けまで達したら、ゴールと言えるようになると思いますか。

(答) 復興に達したということですか。

(問) はい。

(答) 復興というのは、なかなかその完成度というか、どこまで到達したらというのはなかなか難しいと思いますが、いずれにしても、私どもはこの復興に向けて自分たちの意識の中では、今までよりも上になるということ。状況として生活環境や生業・産業が今までよりも良くなっていくだろう、そういうことを想定しているわけでありまして。これを地震・津波被災地域については、正にそれを仕上げていく時期に今来ていると。あと2年強でありますけれども、そこをしっかりと成し遂げていく。

そして、また福島原子力災害被災地については、これから本格的に復興がなされていくだろうという状況でありますので、この部分については、更に国としても全面的にバックアップしていかなければならない、そのように思っております。

(以 上)